コロナ禍における社会奉仕事業アンケートのレポート

国際ロータリー第2580地区社会奉仕委員会　　2021年4月14日

国際ロータリー第２５８０地区社会奉仕委員会は、２０２１年１月２６日から２０２１年３月２５日まで「コロナ禍における社会奉仕事業アンケート」を実施しました。国際ロータリーとは経営者と専門職、地域社会のリーダーが集まる国際的組織です。世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。第２５８０地区とは東京北部と沖縄をエリアとして、７０クラブがあります。

１．アンケートの概要

７０クラブ中５６クラブから回答をいただきました。「本年度、社会奉仕事業（新型コロナウイルスに関する事業を含む）を行っていますか？」の問いに対して、

・行っている　４５
・行うことを検討している　１４
・行う予定はない　０
・中止または中止の方向　１１

となっています（重複回答をしているクラブがあります)。コロナ禍においても５０クラブが社会奉仕事業を行うか、行うことを検討しています。

各クラブの既に行われた社会奉仕事業を分類すると、下記のとおり（クラブ数については重複あります)、

(1) 新型コロナ関連（９クラブ）
(2) 子ども食堂など困窮している子どもへの支援（１９クラブ）
(3) 社会福祉協議会との連携（６クラブ）
(4) 継続事業・地域への寄附（１４クラブ）

に分けられます。

傾向としては、(1) マスク・防護服などの寄贈を行う新型コロナ関連から (2) 新型コロナによる社会的・経済的影響への支援でもある子ども食堂など困窮している子どもへの支援にシフトしているようです。ただし、(1) マスク・防護服などの支援の需要は医療機関や保育園などにまだまだあることがわかります。地域における課題・ニーズに対応するため、(3) 社会福祉協議会との連携も行われています。社会福祉協議会が増加・多様化する地域における課題・ニーズへ対応が難しくなっているところにロータリークラブはサポートしているようにみえます。(4) 継続事業・地域への寄附も行われています。地域における課題・ニーズに対応することが大切ですので、すべてのクラブが (1) 新型コロナ関連、(2) 子ども食堂など困窮している子どもへの支援に向かう必要はありません。むしろ、(1) 新型コロナ関連、(2) 子ども食堂など困窮している子どもへの支援に向かう中、地域の課題・ニーズの取りこぼしを防いでいるといえます。また、継続事業として東日本大震災被災地支援も行われています。

２．コロナ禍における社会奉仕事業についてのトピック

(1) 新型コロナ関連　※マスク・防護服などの寄贈

①東京神田RC／「防護服支援プロジェクト」

２０２０年４月より、新型コロナウイルス感染症に対応する医療機関及び高齢者施設を対象として、ボランティアがポリ袋と養生テープを使って簡易防護服を作り、無償提供する活動を支援しています。感染拡大と防護服ニーズの高まりによって、全国

的に支援先が増加し、３月時点で全国２１９か所以上、９１，０３８着超の提供となっています。

なお、ボランティアは気仙沼にて東日本大震災被災地の支援を受けていた方々が担っているとのことです。支援を受ける側だった方々が、今度は支援をする側になることは自信を持っていただけることになります。また、日々、コロナ禍の最前線でご苦労をされている医療従事者の方々が被災地からも応援をされていることを感じることはこれからも一緒にがんばっていこうという気持ちになっていただけます。

②東京ベイ RC／「江東区保育園向けマスク寄附」

２０２０年１１月、江東区こども未来部を通じ、江東区内の保育士らを対象として、大人向けマスク１５，０００枚を寄附しました。東京江東 RC との合同事業です。なお、市中にてマスクの販売は回復していますが、業務用マスクへのニーズがまだまだあるとのことです。東京ベイ RC では当事業に連携していただけるロータリークラブを募集されています。

③那覇西 RC／「外国人留学生就学支援特別給付事業」

２０２０年１０月、沖縄県内の専門学校等に就学している外国人留学生対象者１０名へ特別給付（月額２万円×６か月。１２万円／１名。総額１２０万円）を行いました。なお、選考で給付対象外となった留学生９名に対しても、１名につき米券５千円×２回を贈呈しました（総額９万円）。

(2) 子ども食堂など困窮している子どもへの支援　※新型コロナによる社会的・経済的影響への支援でもあります

①東京麹町 RC／コロナ禍で貧困に直面しているひとり親世帯への支援

しんぐるまざあず・ふぉーらむを通して、５ｋｇのお米を毎月１８袋提供しています。また、賞味期限の近いもので、流通させられない食品（そのままですと廃棄処分となり、フードロスにつながる）を送っています。

②東京板橋セントラル RC／「「食」からつながる応援プロジェクトの第２回食品配布会への協賛」

２０２０年１１月、「食」からつながる応援プロジェクト（事務局は板橋区社会福祉協議会）へ熊本県産米２００キログラムを協賛しました。新型コロナウイルス感染症の影響により子ども食堂が開催できなくなっているところ、子ども食堂を必要とするような子育て家庭へ食品配布を行い、NPO 法人や民生委員などのサポートにつなげました。「食品などをいただけたのが嬉しかった以上に、言葉をかけていただいたのが嬉し

かった」、「スタッフさんの優しい笑顔ですごく心も温まりました。自分は一人じゃないんだと、娘もたくさんの方に支えられて育てられているんだと、そう思いました」というコメントをいただきました。なお、２０２１年２月の第３回食品配布会へも協賛しました（さらに熊本県産米200キログラム）。

③東京武蔵野中央 RC／「武蔵野市子ども食堂支援事業」

２０２０年１１月から、みかづき子ども食堂・みかづき学習室へ支援を継続しています。およそ７人に１人が貧困状態（相対的貧困）にあるといわれており、相対的貧困は子どもの心理的な側面にも悪影響を及ぼし、周りのみんなにとって当たり前の生活が、自分だけが享受できないという状態は、子どもたちに破壊的なダメージを与えるとも言われています。このような状況のなかで、地域に根差すロータリークラブである私たちに何ができるかを考えた時に、足元の武蔵野市で経済的に困難な家庭の子どもたちを支援している子ども食堂に焦点を当てることにしました。武蔵野市内には６か所の「子ども（コミュニティ）食堂」があります。コロナ禍の影響で活動休止の状態ですが、唯一、「みかづき子ども食堂」は、週に１回、フードドライブで経済的に困難な家庭に食材を届ける活動を行っています。我がクラブはこの子ども食堂に食材を提供し、また、食材の仕分け作業のお手伝いを行っています。

④東京青梅 RC／「フードドライブ」

２０２０年７月、１２月、例会にて会員から寄贈いただいた食品をフードバンク青梅を通じて市内の子ども食堂や児童福祉施設に届けました。

⑤浦添 RC／「コロナ禍困窮家庭の支援」

２０２１年２月～３月、浦添市社会福祉協議会と連携し、クラブ内で寄附金を集めて、定例で弁当配布を行いました。３月５日、浦添市社会福祉協議会のご協力を得て弁当贈呈式を執り行いました。最少人数で参加とのこともあり、クラブからは会員７名、浦添市社会福祉協議会からは会長含む６名となりました。後日、沖縄タイムスにも記事として掲載されました。浦添市社会福祉協議会の久貝会長からお礼のご挨拶、実際に支援されたお子さんからお礼の手紙をいただきまして、久しぶりに奉仕の達成感を味わいました。コロナ禍で引続き地域のニーズを捉えた社会奉仕を今後の課題として継続していきます。

３．まとめ

２０１９年、地区社会奉仕委員会は東京北部と沖縄（那覇市、浦添市）の社会福祉協

議会へのヒアリングを行いました。そこで見えてきたことは、お年寄りだけでなく、子ども、子育て世帯、若者いずれも地域で「孤立」しているという問題でした。コロナ禍により「孤立」という問題は深刻化しているのではないでしょうか？　このことは、コロナ禍で社会的・経済的影響を受ける母子家庭などの困窮世帯への支援が増えていることにも現れているのかもしれません。さらに、コロナ禍により地方自治体の財政悪化、社会福祉協議会の予算減少、そして、地域の課題・ニーズへの対応が絞られることが想定できます。ロータリークラブの社会奉仕事業の重要性は増すものとなるでしょう。

　このような状況の中で、ロータリークラブは、「ただ単に、品物やお金を寄附するだけではなく、その現場をみて、どうしたらその環境を変えられるか、個々の家庭レベル視線での提案対策に協働していく、寄り添っていく、関わっていくことも大切ではないか」（名護ロータリークラブ）、「我がクラブにおける奉仕とは、そもそも何か？　奉仕先に、どうして差し上げることが心底から喜んでいただけるのだろうか？」（東京紀尾井町ロータリークラブ）と考えています。

　今後も、ロータリークラブは地域の課題・ニーズとマッチした、タイムリーな社会奉仕事業を継続していきます。